

## 環境問題について調べよう

11月～12月(8時間)

### 1 ねらい

- ・ 環境教室や生き物みつけなどを活用し、自分たちを取り巻く自然環境がさまざまな生物とのつながりを保ちながら成り立っていることに気付くことができる。
- ・ 生物のつながりや働きを調べることで、自然環境に対する理解を深める。
- ・ 環境問題について調べることで、環境問題を身近にとらえ、環境を大切にするために自分達にできることを考えることができる。

### 2 実践の概要

#### (1)「環境問題によって、生物や周りの自然がどのように変化したのか調べよう」

本活動では、まず子供達の環境問題について知っていることを採り上げる。環境問題の名前について知っている子は多かったが、環境問題による被害や現状について知っている子は少なかった。環境問題に関するDVDや資料を見ることで、環境問題についての理解を深め、調べようという意欲を高めた。

#### (2)「身近な自然環境を探る方法を決めて、調査してみよう」

本活動では、自分の興味をもった環境問題について班で調べるようにした。地球温暖化、オゾン層破壊、水質汚濁、大気汚染、酸性雨、在来種・外来種について班ごとに調べた。調べる方法は本やインターネット、実際にその場へ行っての調査、環境教室の利用などである。



環境教室では、「水の大切さについて考えよう」、「知っていますか?外来生物」で自分達の身近な川の水質が本当にきれいなのかパックテストで調べたり(お米づくりの水をその川から引いてきていたので)、外来生物の問題点や現状についてパワーポイントで学んだりしました。特に、パックテストなどの体験活動は、自分たちにとって身近なことでもあり、水道水を調べたり、学校の池の水を調べたりと興味をもって活動することができた。地域の川の水は思ったよりもきれいで、地域の人達が川をきれいにしてくれていることに気付くことができた。

#### (3)「環境会議をしよう」

本活動では、子供達が調べてきたことを発表し、環境問題について自分達ができることを考え、話し合った。「シャワーの水を出しっぱなしにしない」、「電気をしっかり消す」、「ゴミを出さないように物を大切に使う」など様々な意見が出た。自分たちにできることを考え、意見を出し合うことで環境への意識も高まったように感じられた。



### 3 実践を振り返って

子供達が環境問題について関心をもつためには、環境問題への知識だけではなく、実際に自分で体験してみたり、自分達にとって身近な問題として考えたりすることが大切であるということがわかった。この実践を通して、子供たちに自分たちができることをしようという意識が芽生えたと思う。子供が体験し、自分はどのようにいけばいいのか考えられる授業をこれからも考えていきたい。